児童発達支援センター「つばさ学園」事務室外構

「年度内に外構やる」市長約束

最終的には「売却」が決まった旧割烹新川屋の再整備も、白みりんミュージアム建設も、外構を含めた計画です。一方、就学前の障害児に寄り添う「つばさ学園」では２４年度、事務所増築が実現。しかし市民や市職員に対する姿勢（市政経営の本質）が露骨に現れました。



総事業費７億円の白みりんミュージアム

つばさ学園の事務室の狭さは、２３年第３回定例会決算委員会で渡辺仁二議員（流政会）の質疑で発覚。おだぎりたかし市議はいぬいえり議員と現場を視察し、同年第４回定例会の一般質問で取り上げました。

伊原理香健康福祉部長は「非常に狭あい」と認め、「概ね５０人が事務を利用し、気積は約５．６㎥。労働安全衛生法の衛生基準規則（１人１０㎥）に至っていない」「２４年度当初予算に盛り込み要求をしている」と答弁していました。

しかしその後、２４年第１回定例会予算委員会では、高橋あきら市議（日本共産党）の質疑に井崎市長は「施設で子どもの支援を行っている職員は、日中事務室は使用しない。労働安全衛生法の基準を満たして」と独自の論理で答弁。開き直っていた結果、職員への配慮を欠いた工事内容にとどまっていました。



事務所に入る職員通路。外構は土のまま放置。「すのこ」（職員自作）を設置しますが、降雨時は、足元は滑り、足元が汚れてしまいます。（９月２４日決算委員会による現地視察）



日本共産党 流山市議会議員

おだぎりたかし

流山民報号外（２５．１０．８）小田桐090－8567－8858